



・区分	2050	ハード部門（建築）
タイトル	安全帯取付用丸環付吊ボルト	
動機・改善前の状況	天井内配管及び天井内配線等の設備工事において、脚立に足場板を結束し作成した作業床や、立ち馬等の可搬式作業台を使用しての作業が一般的である。この際、手摺の無い状態での作業となり、墜落での休業及び不休災害が数多く発生しているのが実状である。	
改善・実施事項	対策として安全帯の使用を励行したいが、安全帯を使用する為の施設が無く、どのような物で対応するかという中で、丸環付吊ボルトを採用した。これは丸環を500mm程度のボルトの先につけた物で、作業員が各々所持し作業箇所、天井下地用インサートや設備配管及び配線吊ボルト用インサートを利用し、各自取り付ける。そしてボルトの先の丸環に安全帯を掛けて作業するのである。作業員の数だけあれば十分で、親綱や手摺等で対応するよりも、タイムリーでかつ手間もかからず、盛り替えも各自で容易に行える。またコストもそれ程かからない。	
改善効果	開発後同作業での墜落災害が減少した。	
活動内容 改善事項の図、 写真	 	
事例提供先	(株)竹中工務店	